

価値観の測定：インゲルハート(R. Inglehart)の価値観尺度の改良*

栗 田 真 樹**

1 はじめに

質問紙調査を用いて行われた実証的研究についていえば、先駆的な研究において使用された質問項目が比較の目的もあって他の研究で使われることが多い。この点についての問題は批判的検討なしにこれらの項目が使われることである。

批判的検討がなければ「文字どおりに」先行研究の項目が使用されるが、印刷時の校正ミスなどの誤謬によって、本来の質問文、質問項目と異なることがある。例えば「消費者関与」についての堀の研究(1989)では、小嶋・杉本・永野(1984、1985)による「魅力を感じる商品である」という項目が「力を感じる商品である」として「魅」が欠落して設定され、堀の後の研究(1991)でもそのままこの項目が使われている。比較の目的で設定された項目であるにもかかわらず、かえってそれが困難になるというパラドクスに陥ってしまっている。

批判的な検討のなかでも、方法に関する議論はあまりなされることがない。同じ質問紙調査法を用いても「自記式」調査法と「他記式」調査法では、調査員の影響という点で回答に差が生じることを考慮しなければならないであろうし、データ解析でのコーディングの方法によって結果が変わってくることもあり得るのである(柳井・高根、1977: 182-183)。

実証的な研究は、個々の調査結果からは、「ある理論変数を、ある手続きで、ある具体的な項目に操作化し、ある調査対象に、ある調査主体が、ある時期に、ある方法を用いて調査を行い、ある結

果が得られた」としか言うことができない。ところが、実証的に研究されたある命題について議論される時、これらの一部のみに取り出され議論されることが多い。そのため、条件が整わないと成立しない命題であるにもかかわらず一般化され、異なる条件下でも成立するかのように捉えられ、命題が一人歩きする危険性があるのである。

この小論では、インゲルハート(R. Inglehart)が世界価値観調査(World Values Survey)において用いた質問項目について、それらから構成される価値観尺度の改良を示すこととする。

2 インゲルハートの価値観尺度

インゲルハートは『静かなる革命』、『カルチャーシフトと政治変動』において、「物質主義から脱物質主義へ」という価値観の変容を測定するために、以下の質問項目から構成される価値観尺度を作成している(Inglehart, 1977=三宅ほか、1977; 1990=村山ほか、1993)。1990年に行われた世界価値観調査においても、この尺度は継続して用いられている。ここでの目的が測定の問題点を指摘することにあるという点から、インゲルハートの用いた質問文(質問項目)をすべてあげることにする(村山ほか、1993: 124-126)。

「最近、この国のむこう10年間の目的はなんであるべきかについてさかんに議論されています。(回答者にカードAをわたす)。このカードには様々な人々が最優先させるであろうような目標のいくつかが記載してあります。あなた自身はこれらのどれを一番重要と考えるかをいっていただけ

*キーワード：価値観、測定、尺度

**吉備国際大学社会学部講師、関西学院大学社会学部兼任講師

ませんか。

(カード A)

- A 高度経済成長を維持していくこと
 - B 強力な防衛力を確保すること
 - C 職場や地域社会でのものごとの決定にもっと人々の声を反映させること
 - D 自分の住んでいる町やいなかをもっと美しくしようとすること
- そして二番目に重要なのはどれですか。

(回答者にカード B をわたす。)もし選ばなければならないとすれば、このカードに記載されているもののうち、どれをあなたは一番好ましいと思いますか。

(カード B)

- E 国内の秩序を維持すること
 - F 重要な政府の決定にもっと人々の声を反映させること
 - G 物価の上昇をくいとめること
 - H 言論の自由を守ること
- そしてあなたは二番目にどれを選びますか。

ここにもう一つリストがあります。(回答者にカード C をわたす。)あなたの意見では、これらのうち一番重要なものはどれですか。

(カード C)

- I 経済の安定につとめる
 - J 人格を尊重するもっと人間的な社会へと前進すること
 - K いかなる犯罪とも戦っていくこと
 - L 思想が金銭より重視される社会へと前進すること
- 二番目はなんですか。

さて、これら三枚のカードの記載された目標を全部一緒にもう一度見直して、すべての中であなたが一番望ましいと考えるものをいってください。あなたが選ぶものを読み上げてください。そして二番目に望ましいものはどれですか。それからあなたの観点からして、これらのカードにある質問全部のうち一番重要でないのはどれですか。」

これらの項目は、A、B、E、G、I、K が「物質主義」を捉えるため、C、D、F、H、J、L が「脱物質主義」を捉えるために設けられた項目である。

以上12の質問項目とそれらの質問項目によって構成される価値観尺度の問題点を以下に示すことにする。

1) 質問項目数の問題点

イングルハート自身はこの尺度に関して以下の指摘をしている。それは、「カード A」「カード B」「カード C」という4項目ごとの価値観尺度では項目数が少なくバイアスがかかるということである。

「この指数の最大の弱点は、それが四項目にのみ基づいている、という単純な事実である。その結果、この指数は短期的な諸力に対して必要以上に敏感に反応することになる。」(Inglehart, 1977 = 三宅ほか, 1978 : 41)

したがって、複数の質問項目によってそのバイアスを相殺した方がよい。

「しかし指数の選択肢をさらに広げることにより、危険をより多数の項目に拡散して個人の得点が最近の何か特定の事件によって不当にゆがめられることのないようにできるだろう。そのうえ、選択肢を広げた指数は、調査研究における主要問題である測定誤差の量を減少させるのにも役立つだろう。」(Inglehart, 1977 = 三宅ほか, 1978 : 41)

すなわち、「一つだけの項目の場合、応答に真の態度を反映させている者と、本質的に無意味な応答をしている者とを区別することは困難である。しかし、多数の相互に関連した一連の質問の場合は、たぶん真の基本的選好を反映することになる」(Inglehart, 1977 = 三宅ほか, 1978 : 41) のである。

2) 操作化の問題点

イングルハートの研究では、「物質主義——脱物質主義」という理論変数を具体的な質問項目という経験変数に置き換える(操作化する)手続きが詳しく議論されておらず、なぜ、うへの諸項目が採用されたのかが明らかではない。したがって、理論化と操作化の対応関係を再検討することができない。これは研究の追試可能性という点から大いに問題である。

3) ワーディングの問題点

ワーディングに関しては以下の問題点をあげることができる。

①それぞれのカードで質問されている次元が異なる

カードAは「・・・重要と考えるかをいっていただけませんか。」であり、カードBは「もし選ばなければならないとすれば、・・・好ましいと思いますか。」であり、カードCは「あなたの意見では、・・・重要なものはどれですか。」であり、12項目の中から選ぶ場合は「・・・望ましいと考えるものをいってくれませんか。」である。

すべてのカード、すなわち12項目を一次元として取り扱う場合には、『重要である』に対する回答と『好ましい』に対する回答の相関が高いためにこれらのカードは一次元として取り扱うことが可能である」という議論が必要であろう。

②それぞれの項目にはさまざまな対象と行動様式が含まれており、回答者がそのいずれに反応したのかが判断できない

それぞれの項目の対象は、高度経済成長、防衛力、職場や地域社会でのものごとの決定への人々の声、自分の住んでいる町やいなか、国内の秩序、政府の決定への人々の声、物価の上昇、言論の自由、経済の安定、人間的な社会、犯罪、思想が金銭よりも重視される社会、である。

また、それぞれの項目の様式は、維持していくこと、確保していくこと、確保すること、反映させること、美しくしようとすること、維持すること、反映させること、くいとめること、守ること、つとめること、前進すること、戦っていくこと、前進すること、である。これらについては対象、様式のいずれかを統一すべきである。

4) コーディング・重みづけの問題点

イングルハートは、各項目を重要として選ばれる順位によって、「1」から「6」までにコーディングし、4項目ごとの質問としてではなく12の別個の変数として取り扱っている。コーディングの方法は以下のとおりである（Inglehart, 1977＝三宅ほか、参考文献11頁）。

ある項目が全12項目中で「最も望ましい」ものとして選ばれると「1」、全体で2番目にランクされると「2」、また最も重要でない位置づけられ

れば「6」とコードする。4項目の組合せの中から一番目に選択されると「3」、二番目に選択されると「4」、一番目にも二番目にも選ばなければ「5」とするのである。

コーディングの後、これらの12項目に関して因子分析によって、2因子が取り出され、さらなる分析に使用されている。しかし、この2因子は、もともとデータ収集前に理論的に設定されたものであり、データによる修正を許さない、いわば「理論中心主義」的な考え方である。

さて、質問は4項目の中から一つを選択する形になっている。ある項目についてのコードが高い場合、他の3項目のコードは必然的に低くなる。論理的に考えれば、「最も重要」として選択された項目は「二番目に重要」としては選択されない。つまり自由度が低いものとなる。したがって、この場合、「最も」と「二番目」に選ばれる二変数の組合せは、相関が低いとされる順序尺度である（佐々木、1993）が、レンジが小さく、回答の組合せによって他の項目のコードが影響されるため、相関係数は負の高い値であることが予測できるのである。

既に示したように、イングルハートは同様の指摘をし、4項目だけでなく、12項目を一まとめに取り扱うことによって、4項目ごとの「項目の独立性」を解消しようとしている。この場合、イングルハートが指摘しているように「ある項目の順位型の項目の順位を決定する程度は小さくなる」けれども、依然としてその非独立性は残るのである。というのも、12項目中「最も望ましい」ものは、論理的には3つのカードでそれぞれ一番目に選ばれたものの中から選ばれるであろうし、「最も望ましくない」ものは、3つのカードのうちいずれにも選ばれなかったものの中から選ばれるはずである。独立性を達成するためには、12項目ごとに「どの程度重要か」を聞くという方法が考えられる。

これらの12項目については、1990年の世界価値観調査においては、全12項目中から「最も望ましい」もの、「二番目に望ましい」もの、「一番重要でない」ものを答えるという質問項目は削除されている。したがって、12項目を一まとめにして扱うということはできず、アグリゲートデータのレ

ベルでは比較が困難になっている。つまり、『静かなる革命』で用いられたデータを再分析する必要があるのである。

3 価値観尺度の改良：コーディングの改良実験1（12項目個別のコーディング）

以上の問題点をふまえたうえで、イングルハートの価値観尺度を改良する試みを行った。使用したデータは、1990年世界価値観調査日本調査のデータである。世界価値観調査では、これらの質問項目は変数名V257からV262までであり、項目、選択肢は前出のものと同じである。AからLまでの項目は、4項目ごとにそれぞれ1から4に、また「わからない」は「9」にコーディングされている。さらに欠損値として「0」が準備されている。

まず、12項目をそれぞれ別個に取り扱い12の変数として取り扱う方法について検討する。

質問は「わからない」を含めた5つの選択肢から「最も重要」「二番目に重要」を選ぶことになっている。それぞれの項目が「最も重要」として選ばれるのか、「二番目に重要」として選ばれるのか、あるいはいずれにも選ばれないのかによって、それぞれの項目（変数）に関する得点がつけられる。

つまり、「最も重要」として選ばれた場合「3」を、「二番目に重要」として選ばれた場合「2」を、いずれにも選ばれなかった場合「1」をコーディングし、それぞれの項目に関する意識が高いほど高得点になるようにする（資料1）。

ここで、「無回答」を含めて回答のパターンを考えると「論理的」には項目A（回答の選択肢は「1」）を基準にすると、考えられる回答のパターンは以下の組合せになる。

最も重要	二番目に重要
1	2~4
1	9
1	無回答
2~4	1

2~4	2~4
2~4	9
2~4	無回答
9	9
9	無回答
無回答	無回答

しかし、我々の選択や思考というのはつねに「論理的」であるとは限らない。また、他者からは一見「非論理的」なものであったとしても、当人にとっては論理的の整合性がある場合がある。たとえば、「一にも二にも『1』である」とか、「一番目はないが、二番目はある」といった場合である。具体的にいえば、両方に「1」と回答するもの、「最も重要なもの」は「わからない」あるいは「無回答」であっても、「二番目に重要なもの」には「1」と回答する場合がこれにあたる。

これら「非論理的」な回答としては以下の組合せが考えられる。

最も重要	二番目に重要
1	1
9	1
9	2~4
無回答	1
無回答	2~4
無回答	9

これらの場合を含めて、「最も重要である」として「1」が選ばれた場合「4」を「二番目に重要である」として「1」が選ばれた場合「2」を、「最も」「二番目」のいずれであっても「2~4」が選ばれた場合「1」を、「わからない」と「無回答」の場合には「0」をコーディングする。その後「最も重要である」得点と「二番目に重要である」得点を合計する。以上より、最高6点から最低0点までの7点尺度が構成される。このような組合せにおいて、得点は以下ようになる。

最も重要	二番目に重要	
1	1	4 + 2 = 6
1	2~4	4 + 1 = 5
1	9	4 + 0 = 4

1	無回答	4 + 0 = 4
2~4	1	1 + 2 = 3
2~4	2~4	1 + 1 = 2
2~4	9	1 + 0 = 1
2~4	無回答	1 + 0 = 1
9	1	0 + 2 = 2
9	2~4	0 + 1 = 1
9	9	0 + 0 = 0
9	無回答	0 + 0 = 0
無回答	1	0 + 2 = 2
無回答	2~4	0 + 1 = 1
無回答	9	0 + 0 = 0
無回答	無回答	0 + 0 = 0

ただし、いずれも「わからない」「無回答」の組合せの場合、つまり尺度の値が「0」のものは欠損ケースとして取り扱うべきであろう。最終的には6点から1点までの6点尺度が以下のように構成される。

最も重要	二番目に重要	
1	1	4 + 2 = 6
1	2~4	4 + 1 = 5
1	9	4 + 0 = 4
1	無回答	4 + 0 = 4
2~4	1	1 + 2 = 3
2~4	2~4	1 + 1 = 2
2~4	9	1 + 0 = 1
2~4	無回答	1 + 0 = 1
9	1	0 + 2 = 2
9	2~4	0 + 1 = 1
無回答	1	0 + 2 = 2
無回答	2~4	0 + 1 = 1

この尺度においては、ともに「1」を選んだ人は6点となり、回答が再現可能となる。単純集計表(資料2)を見てみると、6点という「最も重要」「二番目に重要」が同じ回答である場合が、「経済成長 (GROWTH1)」「職場での発言 (SAYJOB1)」「社会秩序の維持 (ORDER1)」「物価の上昇をくいとめる (PRICE1)」「経済安定 (ECONO1)」で見られる。

4 「物質主義——脱物質主義」尺度の改良：コーディングの改良実験2

もともと、「物質主義——脱物質主義」という軸がありながら、さらに12項目を因子分析にかけこれらの項目を分類するのは、12の項目から「物質主義——脱物質主義」という軸が構成できるかどうかを確かめるといふ意図があると考えられる。

イングルハートは近著「Modernization and Postmodernization」(1997)のなかで、12項目を12変数として捉える考え方ではなく、選択される項目の「物質主義」「脱物質主義」の組合せに着目して「物質主義——脱物質主義尺度」を作成するための二つの方法を提案している。

①4項目による「物質主義尺度」(資料3、資料4)

イングルハートは、まず4項目から「物質主義——脱物質主義尺度」を作成している。これは、4項目ごとの間の第2群、つまり「カードB」の4項目のみを用いている。尺度構成の手順は、「最も」「二番目」の回答が「E 国内の秩序を維持すること」と「G 物価の上昇をくいとめること」という「物質主義」項目の組合せであれば「1」を、「F 重要な政府の決定にもっと人々の声を反映させること」と「H 言論の自由を守ること」という「脱物質主義」項目の組合せであれば「3」を、それらの混合型であれば「2」をコードすることを意図して作成されたものである(資料3の①)。

しかし、この方法によって作成された尺度は、項目数によるバイアスの問題を解決していない。また、せっかく得られた他の質問に対する多くの回答を有効に利用していないことになる。さらに、指定されているSPSSシンタックスの指示にしたがって新しい変数を構成すると、新しい変数に関して、元の質問に対する欠損値を分析に含んでしまうので、新変数の欠損値を指定しておく必要がある(資料3の②)。

また、イングルハートによるシンタックスは、まずすべてのケースを「2」に変換し、その後条件に合うケースを「2」から他のコードに再変換していくという方法をとっている。これは、SPSSのシンタックスが、前方と後方ではより後方のもの

の方が有効になるという特徴を利用したものである。しかし、資料4に示すように、結果として分布は同じになるが、条件を詳しく指定する方が、データ解析のデザインを具体的なシンタックスに「操作化していく」という点では望ましい方向ではないかと考える。

②12項目による「物質主義尺度」(資料5、6)

イングルハートは、4項目からなる尺度だけでなく、12項目からなる尺度も作成している。その手順は、以下の条件を満たせばそれぞれに「1点」を与え、その合計得点から尺度を構成するという方法である。

その条件とは、

・カードAの「最も」もしくは「二番目」のいずれかに「C 職場や地域社会でのものごとの決定にもっと人々の声を反映させること」を選んだ場合

・カードBの「最も」もしくは「二番目」に「F 重要な政府の決定にもっと人々の声を反映させること」「H 言論の自由を守ること」のいずれかを選んだ場合

・カードCの「最も」もしくは「二番目」に「J 人格を尊重するもっと人間的な社会へと前進すること」「L 思想が金銭より重視される社会へと前進すること」のいずれかを選んだ場合

である。

これにより、最高5点最低0点の6点尺度が構成される。ここでもSPSSシンタックスと欠損値に注意しなければならない。とくに、COMPUTEシンタックスを用いる場合には、その条件式で指定されないケースはすべてシステム欠損値(SYSMIS)となってしまう、多くのケースが欠損値となってしまう(資料5の①)。このような場合、資料5の②のようにシステム欠損値を再コードする方法がある。しかし、この場合、元の欠損値までもがデータ解析に含まれてしまうため、詳しい条件式が必要になってくるのである(資料6:KV1010)。

また、脱物質主義的項目として設定されている「D 自分の住んでいる町やいなかをもっと美しくしようとすること」が尺度構成に用いられていない。よって、この項目を条件に含めた尺度構成

の試みを行った(資料7:①V1110、②V1210)。この場合も、欠損値に注意する必要がある、V1110では欠損値が分析に含まれてしまうことになるので、V1210のように欠損値を分析から除外する必要はある。

しかし、上の方法では脱物質主義的項目を「最も重要」に選んだ場合と「二番目に重要」に選んだ場合の重み付けが等しく扱われ、「最も重要」「二番目に重要」という序列をつける意味がなくなってしまう。そこで、ここでは尺度を以下のように再構成した。

「物質主義—脱物質主義」尺度を構成するために、脱物質主義的な人ほど得点が高くなるよう、以下のように得点化する。「最も重要である」として物質主義的二項目のうちいずれかが選ばれた場合「2」を、脱物質主義的二項目のうちいずれかが選ばれた場合「4」を、「わからない」もしくは「無回答」の場合には「0」をコーディングする。「二番目に重要である」として物質主義的二項目のうちいずれかが選ばれた場合「1」を、脱物質主義的二項目のうちいずれかが選ばれた場合「3」を、「わからない」もしくは「無回答」の場合には「0」をコーディングする。その後「最も重要である」得点と「二番目に重要である」得点を合計する。前項と同様に、いずれも「わからない」と「無回答」の組合せの場合は欠損値とする。以上より、最高7点から最低1点までの7点尺度が構成される。しかし、この組合せでは6点が存在せず7点が突出するために、7点を6点に再コードする。したがって、最高6点から最低1点までの6点尺度が構成される。このような組合せにおいて、得点は以下ようになる。

最も重要	二番目に重要	
物質主義	物質主義	2 + 1 = 3
物質主義	脱物質主義	2 + 3 = 5
物質主義	わからない	2 + 0 = 2
物質主義	無回答	2 + 0 = 2
わからない	物質主義	0 + 1 = 1
無回答	物質主義	0 + 1 = 1
脱物質主義	物質主義	4 + 1 = 5
脱物質主義	脱物質主義	4 + 3 = 7

(6に再コード)

脱物質主義	わからない	$4 + 0 = 4$
脱物質主義	無回答	$4 + 0 = 4$
わからない	脱物質主義	$0 + 3 = 3$
無回答	脱物質主義	$0 + 3 = 3$

最後に、4項目ごとの得点を合計する。これにより、最高18点、最低3点の16点尺度が構成される(資料8)。

5 おわりに

以上複数の尺度のうち、いずれをとるべきかは、それぞれの分析の視点に基づくものである。理論を重視し、得られたデータの分析結果を理論に見合うように解釈する「理論中心主義」の立場をとるか、得られたデータから理論を修正していく「データ中心主義」の立場をとるのかの違いもある。あるいは、分析を大まかな傾向を捉えるための手段として考えるか、細かな部分についても着目し分析しようとするのかもその科学的立場、いわば「思想」といったものによって異なるのである。

さて、この尺度実験は尺度の分布のみを問題としている。次には、これらの尺度を用いて「物質主義—脱物質主義」に関して、どのような側面を明らかにできるかが重要となる。

『静かなる革命』に示されて以後、イングルハート尺度は様々に議論されてきた。フラナガンによる改良が「イングルハート=フラナガン論争」と呼ばれる議論を巻き起こした(鮎戸・田中1986; 鮎戸, 1987)ように、尺度構成が議論されること自体は価値観研究の進展にとっては非常に重要なことであろう。しかし、それが正しい、あるいは間違っているというような論争は無意味である。それぞれの分析手法をとれば何が判明するのかを議論しなければならない。その意味においては、この小論もその目的を達成できていない。しかしながら、その目的を達成するためにはたとえ微々たるものであっても、重要なワンステップではないかと考える。

同じデータを用いても、尺度構成の方法によっては分析の結果が異なる可能性がある。したがって、実証的研究においては分析の過程、作業手順

の提示が重要になる。また、既存の研究において使用された質問項目をあらためて使う際には批判的検討が必要である。それは結果としての命題がそれを導いた実証的な方法と離れて「一人歩き」する危険性があるためである。それを防ぐためには、分析と結果の関係を明示しておかなければならない。したがって、尺度の選択にも議論が必要なのである。

<参考文献>

- 鮎戸弘 1987. 『新しい消費者のパラダイム』 中央経済社
- 鮎戸弘・田中寿六 1986. 「物質志向・脱物質志向」『青年心理』 1987年9月号, pp. 102-109.
- 堀啓造 1989. 「製品関与とベネフィット」『広告科学』 Vol. 18, pp. 75-80.
- 堀啓造 1991. 「消費者行動研究における関与尺度の問題」『香川大学論叢』 第63巻第4号, pp. 1-56.
- Inglehart, Ronald., 1977. *The Silent Revolution*, Princeton University Press. [三宅一郎ほか(訳) 1978. 『静かなる革命』 東洋経済新報社.]
- Inglehart, Ronald., 1990. *Cultural Shift in Advanced Industrial Society*, Princeton University Press. [村山皓ほか(訳) 1993. 『カルチャーシフトと政治変動』 東洋経済新報社]
- Inglehart, Ronald., 1997. *Modernization and Postmodernization*, Princeton University Press.
- 小嶋外弘・杉本徹雄・永野光朗 1984. 「製品関与の心理学的研究(1)(2)(3)」『日本心理学会第48回大会発表論文集』 日本心理学会, pp. 814-816.
- 小嶋外弘・杉本徹雄・永野光朗 1985. 「製品関与と広告コミュニケーション効果」『広告科学』 Vol. 11, pp. 34-44.
- 佐々木保行(監) 1993. 『実務的SPSSによる多変量解析法』 高文堂新光社.
- 柳井晴夫・高根芳雄 1977. 『新版 多変量解析法』 朝倉書店.

資料1 インゲルハートの方法に基づく12項目のコーディング

a) SPSS シンタックス (なお、データの定義で「9」を欠損値としてあらかじめ指定している)

* Inglehart 12 items.

- IF (v257=1) GROWTH=3.
- IF (v258=1) GROWTH=2.
- IF (v257 NE 1 AND v258 NE 1) GROWTH=1.
- IF (v257=2) DEFENSE=3.
- IF (v258=2) DEFENSE=2.
- IF (v257 NE 2 AND v258 NE 2) DEFENSE=1.
- IF (v257=3) SAYJOB=3.
- IF (v258=3) SAYJOB=2.
- IF (v257 NE 3 AND v258 NE 3) SAYJOB=1.
- IF (v257=4) BEAUTY=3.
- IF (v258=4) BEAUTY=2.
- IF (v257 NE 4 AND v258 NE 4) BEAUTY=1.
- IF (v259=1) ORDER=3.
- IF (v260=1) ORDER=2.
- IF (v259 NE 1 AND v260 NE 1) ORDER=1.
- IF (v259=2) SAYGOVT=3.
- IF (v260=2) SAYGOVT=2.
- IF (v259 NE 2 AND v260 NE 2) SAYGOVT=1.
- IF (v259=3) PRICE=3.
- IF (v260=3) PRICE=2.
- IF (v259 NE 3 AND v260 NE 3) PRICE=1.
- IF (v259=4) SPEECH=3.
- IF (v260=4) SPEECH=2.
- IF (v259 NE 4 AND v260 NE 4) SPEECH=1.
- IF (v261=1) ECONO=3.
- IF (v262=1) ECONO=2.
- IF (v261 NE 1 AND v262 NE 1) ECONO=1.
- IF (v261=2) HUMANE=3.
- IF (v262=2) HUMANE=2.
- IF (v261 NE 2 AND v262 NE 2) HUMANE=1.
- IF (v261=3) IDEAS=3.
- IF (v262=3) IDEAS=2.
- IF (v261 NE 3 AND v262 NE 3) IDEAS=1.
- IF (v261=4) CRIME=3.
- IF (v262=4) CRIME=2.
- IF (v261 NE 4 AND v262 NE 4) CRIME=1.

b) 出力

GROWTH

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	241	23.8	30.9	30.9
2	172	17.0	22.1	52.9
3	367	36.3	47.1	100.0
.	231	22.8	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	780	Missing cases	231	

DEFENSE

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	648	64.1	87.4	87.4
2	63	6.2	8.5	96.0
3	30	3.0	4.0	100.0
.	270	26.7	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	741	Missing cases	270	

SAYJOB

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	294	29.1	38.1	38.1
2	216	21.4	28.0	66.1
3	261	25.8	33.9	100.0
.	240	23.7	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	771	Missing cases	240	

BEAUTY

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	294	29.1	37.7	37.7
2	285	28.2	36.5	74.2
3	201	19.9	25.8	100.0
.	231	22.8	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	780	Missing cases	231	

ORDER

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	343	33.9	42.3	42.3
2	163	16.1	20.1	62.5
3	304	30.1	37.5	100.0
.	201	19.9	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	810	Missing cases	201	

SAYGOVT

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	369	36.5	45.7	45.7
2	181	17.9	22.4	68.1
3	258	25.5	31.9	100.0
.	203	20.1	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	808	Missing cases	203	

PRICE

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	295	29.2	35.8	35.8
2	288	28.5	34.9	70.7
3	242	23.9	29.3	100.0
.	186	18.4	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	825	Missing cases	186	

CRIME

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	574	56.8	64.7	64.7
2	229	22.7	25.8	90.5
3	84	8.3	9.5	100.0
.	124	12.3	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	887	Missing cases	124	

SPEECH

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	565	55.9	71.2	71.2
2	152	15.0	19.2	90.4
3	76	7.5	9.6	100.0
.	218	21.6	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	793	Missing cases	218	

資料2 栗田による12項目のコーディング

a) SPSS シンタックス (「9 わからない」は欠損値と指定せず)

* Inglehart 12 items KURITA.
 IF (v257=1) v2571=4.
 IF (v257=2 OR v257=3 OR v257=4) v2571=1.
 IF (v257=9 OR v257=0) v2571=0.
 IF (v258=1) v2581=2.
 IF (v258=2 OR v258=3 OR v258=4) v2581=1.
 IF (v258=9 OR v258=0) v2581=0.
 IF (v257=2) v2572=4.
 IF (v257=1 OR v257=3 OR v257=4) v2572=1.
 IF (v257=9 OR v257=0) v2572=0.
 IF (v258=2) v2582=2.
 IF (v258=1 OR v258=3 OR v258=4) v2582=1.
 IF (v258=9 OR v258=0) v2582=0.
 IF (v257=3) v2573=4.
 IF (v257=1 OR v257=2 OR v257=4) v2573=1.
 IF (v257=9 OR v257=0) v2573=0.
 IF (v257=9 OR v257=0) v2583=0.
 IF (v258=3) v2583=2.
 IF (v258=1 OR v258=2 OR v258=4) v2583=1.
 IF (v258=9 OR v258=0) v2583=0.
 IF (v257=4) v2574=4.
 IF (v257=1 OR v257=2 OR v257=3) v2574=1.
 IF (v257=9 OR v257=0) v2574=0.
 IF (v257=9 OR v257=0) v2584=0.
 IF (v258=4) v2584=2.
 IF (v258=1 OR v258=2 OR v258=3) v2584=1.
 IF (v258=9 OR v258=0) v2584=0.
 IF (v259=1) v2591=4.
 IF (v259=2 OR v259=3 OR v259=4) v2591=1.
 IF (v259=9 OR v259=0) v2591=0.
 IF (v260=1) v2601=2.
 IF (v260=2 OR v260=3 OR v260=4) v2601=1.
 IF (v260=9 OR v260=0) v2601=0.
 IF (v259=2) v2592=4.
 IF (v259=1 OR v259=3 OR v259=4) v2592=1.
 IF (v259=9 OR v259=0) v2592=0.
 IF (v260=2) v2602=2.
 IF (v260=1 OR v260=3 OR v260=4) v2602=1.
 IF (v260=9 OR v260=0) v2602=0.
 IF (v259=3) v2593=4.
 IF (v259=1 OR v259=2 OR v259=4) v2593=1.
 IF (v259=9 OR v259=0) v2593=0.
 IF (v260=3) v2603=2.
 IF (v260=1 OR v260=2 OR v260=4) v2603=1.
 IF (v260=9 OR v260=0) v2603=0.
 IF (v259=4) v2594=4.
 IF (v259=1 OR v259=2 OR v259=3) v2594=1.
 IF (v259=9 OR v259=0) v2594=0.
 IF (v260=4) v2604=2.

ECONO

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	265	26.2	29.3	29.3
2	234	23.1	25.9	55.3
3	404	40.0	44.7	100.0
.	108	10.7	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	903	Missing cases	108	

HUMANE

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	194	19.2	21.6	21.6
2	296	29.3	32.9	54.4
3	410	40.6	45.6	100.0
.	111	11.0	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	900	Missing cases	111	

IDEAS

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1	730	72.2	82.3	82.7
2	121	12.0	13.7	96.4
3	32	3.2	3.6	100.0
.	128	12.7	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	883	Missing cases	128	

IF (v260=1 OR v260=2 OR v260=3) v2604=1.
 IF (v260=9 OR v260=0) v2604=0.
 IF (v261=1) v2611=4.
 IF (v261=2 OR v261=3 OR v261=4) v2611=1.
 IF (v261=9 OR v261=0) v2611=0.
 IF (v262=1) v2621=2.
 IF (v262=2 OR v262=3 OR v262=4) v2621=1.
 IF (v262=9 OR v262=0) v2621=0.
 IF (v261=2) v2612=4.
 IF (v261=1 OR v261=3 OR v261=4) v2612=1.
 IF (v261=9 OR v261=0) v2612=0.
 IF (v262=2) v2622=2.
 IF (v262=1 OR v262=2 OR v262=3 OR v262=4) v2622=1.
 IF (v262=9 OR v262=0) v2622=0.
 IF (v261=3) v2613=4.
 IF (v261=1 OR v261=2 OR v261=4) v2613=1.
 IF (v261=9 OR v261=0) v2613=0.
 IF (v262=3) v2623=2.
 IF (v262=1 OR v262=2 OR v262=3 OR v262=4) v2623=1.
 IF (v262=9 OR v262=0) v2623=0.
 IF (v261=4) v2614=4.
 IF (v261=1 OR v261=2 OR v261=3) v2614=1.
 IF (v261=9 OR v261=0) v2614=0.
 IF (v262=4) v2624=2.
 IF (v262=1 OR v262=2 OR v262=3) v2624=1.
 IF (v262=9 OR v262=0) v2624=0.
 COMPUTE GROWTH1=v2571+v2581.
 COMPUTE DEFENSE1=v2572+v2582.
 COMPUTE SAYJOB1=v2573+v2583.
 COMPUTE BEAUTY1=v2574+v2584.
 COMPUTE ORDER1=v2591+v2601.
 COMPUTE SAYGOVT1=v2592+v2602.
 COMPUTE PRICE1=v2593+v2603.
 COMPUTE SPEECH1=v2594+v2604.
 COMPUTE ECONO1=v2611+v2621.
 COMPUTE HUMANE1=v2612+v2622.
 COMPUTE IDEAS1=v2613+v2623.
 COMPUTE CRIME1=v2614+v2624.
 MISSING VALUES GROWTH1 TO CRIME1 (0).

b) 出力

GROWTH 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	84	8.3	9.7	9.7
2.00	241	23.8	27.9	37.6
3.00	171	16.9	19.8	57.4
4.00	44	4.4	5.1	62.5
5.00	323	31.9	37.4	99.9
6.00	1	.1	.1	100.0
.00	147	14.5	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	864	Missing cases	147	

DEFENSE 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	123	12.2	14.2	14.2
2.00	648	64.1	75.0	89.2
3.00	63	6.2	7.3	96.5
4.00	5	.5	.6	97.1
5.00	25	2.5	2.9	100.0
.00	147	14.5	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	864	Missing cases	147	

SAYJOB 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	93	9.2	10.8	10.0
2.00	294	29.1	34.0	44.8
3.00	212	21.0	24.5	69.3
4.00	35	3.5	4.1	73.4
5.00	226	22.4	26.2	99.5
6.00	4	.4	.5	100.0
.00	147	14.5	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	864	Missing cases	147	

BEAUTY 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	84	8.3	9.7	9.7
2.00	294	29.1	34.0	43.8
3.00	285	28.2	33.0	76.7
4.00	44	4.4	5.1	81.8
5.00	157	15.5	18.2	100.0
.00	147	14.5	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	864	Missing cases	147	

ORDER 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	74	7.3	8.4	8.4
2.00	343	33.9	38.8	47.2
3.00	162	16.0	18.3	65.5
4.00	26	2.6	2.9	68.4
5.00	278	27.5	31.4	99.9
6.00	1	.1	.1	100.0
.00	127	12.6	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	
Valid cases	884	Missing cases	127	

SAYGOVT 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	76	7.5	8.6	8.6
2.00	369	36.5	41.7	50.3
3.00	181	17.9	20.5	70.8
4.00	24	2.4	2.7	73.5
5.00	234	23.1	26.5	100.0
.00	127	12.6	Missing	
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	
<hr/>				
Valid cases	884		Missing cases	127

HUMANE 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	33	3.3	3.5	3.5
2.00	194	19.2	20.8	24.3
3.00	296	29.3	31.7	56.1
4.00	20	2.0	2.1	58.2
5.00	390	38.6	41.8	100.0
.00	78	7.7	Missing	
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	
<hr/>				
Valid cases	933		Missing cases	78

PRICE 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	59	5.8	6.7	6.7
2.00	295	29.2	33.4	40.0
3.00	285	28.2	32.2	72.3
4.00	41	4.1	4.6	76.9
5.00	201	19.9	22.7	99.7
6.00	3	.3	.3	100.0
.00	127	12.6	Missing	
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	
<hr/>				
Valid cases	884		Missing cases	127

IDEAS 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	50	4.9	5.4	5.4
2.00	730	72.2	78.2	83.6
3.00	121	12.0	13.0	96.6
4.00	3	.3	.3	96.9
5.00	29	2.9	3.1	100.0
.00	78	7.7	Missing	
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	
<hr/>				
Valid cases	933		Missing cases	78

SPEECH 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	91	9.0	10.3	10.3
2.00	565	55.9	63.9	74.2
3.00	152	15.0	17.2	91.4
4.00	9	.9	1.0	92.4
5.00	67	6.6	7.6	100.0
.00	127	12.6	Missing	
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	
<hr/>				
Valid cases	884		Missing cases	127

CRIME 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	46	4.5	4.9	4.9
2.00	574	56.8	61.5	66.5
3.00	229	22.7	24.5	91.0
4.00	7	.7	.8	91.7
5.00	77	7.6	8.3	100.0
.00	78	7.7	Missing	
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	
<hr/>				
Valid cases	933		Missing cases	78

ECONO 1

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	30	3.0	3.2	3.2
2.00	265	26.2	28.4	31.6
3.00	231	22.8	24.8	56.4
4.00	23	2.3	2.5	58.8
5.00	381	37.7	40.8	99.7
6.00	3	.3	.3	100.0
.00	78	7.7	Missing	
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	
<hr/>				
Valid cases	933		Missing cases	78

資料3 “Modernization and Postmodernization” に示された SPSS シンタクスに基づく 4 項目尺度 (V1000) の単純集計

① a) SPSS シンタクス (「9」は欠損値と指定せず)
 * 1. Materialist-Postmaterialist values (4-item index) : [v1000].
 compute v1000=2,
 if ((v259=1) and (v260=3)) or ((v259=3) and (v260=1)) v1000=1,
 if ((v259=2) and (v260=4)) or ((v259=4) and (v260=2)) v1000=3,
 if ((v259 gt 4) or (v260 gt 4)) v1000=0,
 if ((v259 lt 1) or (v260 lt 1)) v1000=0.
 frequencies variables=v1000.

b) 出力

V1000

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
.00	227	22.5	22.5	22.5
1.00	225	22.3	22.3	44.7
2.00	480	47.5	47.5	92.2
3.00	79	7.8	7.8	100.0
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	

Valid cases 1011 Missing cases 0

②上記①に missing values を加え修正したもの
a) SPSS シンタックス (「9」は欠損値として指定せず)

```
* M1. Materialist-Postmaterialist values (4-item index) : [mv1000].
compute mv1000=2.
if ((v259=1) and (v260=3)) or ((v259=3) and (v260=1)) mv1000=1.
if ((v259=2) and (v260=4)) or ((v259=4) and (v260=2)) mv1000=3.
if ((v259 gt 4) or (v260 gt 4)) mv1000=0.
if ((v259 lt 1) or (v260 lt 1)) mv1000=0.
missing values mv1000 (0).
frequencies variables=mv1000.
```

b) 出力

MV1000

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	225	22.3	28.7	28.7
2.00	480	47.5	61.2	89.9
3.00	79	7.8	10.1	100.0
.00	227	22.5	Missing	
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	

Valid cases 784 Missing cases 227

資料4 SPSS シンタックス修正後の4項目尺度(KV1000)の単純集計

a) SPSS シンタックス (「9」は欠損値として指定せず)

```
* K1. Materialist-Postmaterialist values (4-item index) : [kv1000].
if ((v259 ne 1) and (v260 ne 3)) kv1000=2.
if ((v259 ne 3) and (v260 ne 1)) kv1000=2.
if ((v259 ne 2) and (v260 ne 4)) kv1000=2.
if ((v259 ne 4) and (v260 ne 2)) kv1000=2.
if (((v259=1) and (v260=3)) or ((v259=3) and (v260=1))) kv1000=1.
if (((v259=2) and (v260=4)) or ((v259=4) and (v260=2))) kv1000=3.
if ((v259 gt 4) or (v260 gt 4)) kv1000=0.
if ((v259 lt 1) or (v260 lt 1)) kv1000=0.
missing values kv1000 (0).
frequencies variables=kv1000.
```

b) 出力

KV1000

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
1.00	225	22.3	28.7	28.7
2.00	480	47.5	61.2	89.9
3.00	79	7.8	10.1	100.0
.00	227	22.5	Missing	
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	

Valid cases 784 Missing cases 227

資料5 “Modernization and Postmodernization” に示された SPSS シンタックスに基づく12項目尺度(V1010)の単純集計

①「9」を欠損値として指定

a) SPSS シンタックス

```
* 2. Materialist-Postmaterialist values (12-item index) : [v1010].
if ((v257=3) or (v258=3)) v1001=1.
if ((v259=2) or (v259=4)) v1002=1.
if ((v260=2) or (v260=4)) v1003=1.
if ((v261=2) or (v261=3)) v1004=1.
if ((v262=2) or (v262=3)) v1005=1.
compute v1010=v1001+v1002+v1003+v1004+v1005.
```

b) 出力

V1010

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
5	15	1.5	100.0	100.0
.	996	98.5	Missing	
<hr/>				
Total	1011	100.0	100.0	

Valid cases 15 Missing cases 996

②「9」を欠損値とは指定せず、SYSMISを「0」に再コード

a) SPSS シンタックス

```
* 2. Materialist-Postmaterialist values (12-item index) : [v1010].
if ((v257=3) or (v258=3)) v1001=1.
if ((v259=2) or (v259=4)) v1002=1.
if ((v260=2) or (v260=4)) v1003=1.
if ((v261=2) or (v261=3)) v1004=1.
if ((v262=2) or (v262=3)) v1005=1.
recode v1001 to v1005 (sysmis=0).
compute v1010=v1001+v1002+v1003+v1004+v1005.
frequencies variables=v1010.
```

b) 出力

V1010

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
.00	135	13.4	13.4	13.4
1.00	221	21.9	21.9	35.2
2.00	295	29.2	29.2	64.4
3.00	263	26.0	26.0	90.4
4.00	82	8.1	8.1	98.5
5.00	15	1.5	1.5	100.0
Total	1011	100.0	100.0	

Valid cases 1011 Missing cases 0

資料 6 SPSS シンタックス修正後の 12 項目尺度 (KV 1000) の単純集計

① (「9」は欠損値として指定せず)

a) SPSS シンタックス

* K2. Materialist-Postmaterialist values (12-item index) Kurita version: [kv1010].

```
if ((v257=3) or (v258=3)) kv1001=1.
if ((v257 ne 3) and (v258 ne 3)) kv1001=0.
if ((v259=2) or (v259=4)) kv1002=1.
if ((v259=1) or (v259=3)) kv1002=0.
if ((v260=2) or (v260=4)) kv1003=1.
if ((v260=1) or (v260=3)) kv1003=0.
if ((v261=2) or (v261=3)) kv1004=1.
if ((v261=1) or (v261=4)) kv1004=0.
if ((v262=2) or (v262=3)) kv1005=1.
if ((v262=1) or (v262=4)) kv1005=0.
compute kv1010=kv1001+kv1002+kv1003+kv1004+kv1005.
frequencies variables=kv1010.
```

b) 出力

KV1010

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
.00	36	3.6	4.7	4.7
1.00	138	13.6	18.0	22.7
2.00	248	24.5	32.4	55.1
3.00	248	24.5	32.4	87.5
4.00	81	8.0	10.6	98.0
5.00	15	1.5	2.0	100.0
.	245	24.2	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	

Valid cases 766 Missing cases 245

② 「9」を欠損値として指定 (シンタックスは同じ)

KV1010

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
.00	25	2.5	3.7	3.7
1.00	112	11.1	16.4	20.1
2.00	217	21.5	31.9	52.0
3.00	234	23.1	34.4	86.3
4.00	78	7.1	11.5	97.8
5.00	15	1.5	2.2	100.0
.	330	32.6	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	

Valid cases 681 Missing cases 330

資料 7 12 項目尺度 (脱物質主義項目 6 項目を用いた) 改良尺度

①

a) SPSS シンタックス

* K2-1. Materialist-Postmaterialist values (12-item index) Kurita

```
version: [kv1110].
if ((v257=3) or (v257=4)) v1101=1.
if ((v258=3) or (v258=4)) v1102=1.
if ((v259=2) or (v259=4)) v1103=1.
if ((v260=2) or (v260=4)) v1104=1.
if ((v261=2) or (v261=3)) v1105=1.
if ((v262=2) or (v262=3)) v1106=1.
recode v1101 to v1106 (sysmis=0).
compute v1110=v1101+v1102+v1103+v1104+v1105+v1106.
frequencies variables=v1110.
```

b) 出力

V1110

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
.00	99	9.8	9.8	9.8
1.00	139	13.7	13.7	23.5
2.00	261	25.8	25.8	49.4
3.00	287	28.4	28.4	77.7
4.00	162	16.0	16.0	93.8
5.00	55	5.4	5.4	99.2
6.00	8	.8	.8	100.0
Total	1011	100.0	100.0	

Valid cases 1011 Missing cases 0

②

a) SPSS シンタックス

* K2-1-2. Materialist-Postmaterialist values (12-item index) Kurita

version: [v1210].

```
if ((v257=3) or (v257=4)) v1201=1.
if ((v257=1) or (v257=2)) v1201=0.
if ((v258=3) or (v258=4)) v1202=1.
if ((v258=1) or (v258=2)) v1202=0.
if ((v259=2) or (v259=4)) v1203=1.
if ((v259=1) or (v259=3)) v1203=0.
compute v1210=v1201+v1202+v1203+v1204+v1205+v1206.
if ((v260=2) or (v260=4)) v1204=1.
if ((v260=1) or (v260=3)) v1204=0.
if ((v261=2) or (v261=3)) v1205=1.
if ((v261=1) or (v261=4)) v1205=0.
if ((v262=2) or (v262=3)) v1206=1.
if ((v262=1) or (v262=4)) v1206=0.
frequencies variables=v1210.
```

b) 出力

V1210

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
.00	7	.7	1.1	1.1
1.00	52	5.1	7.9	9.0
2.00	157	15.5	24.0	33.0
3.00	234	23.1	35.7	68.7
4.00	144	14.2	22.0	90.7
5.00	53	5.2	8.1	98.8
6.00	8	.8	1.2	100.0
.	356	35.2	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	

Valid cases 655 Missing cases 356

資料8 12項目による改良尺度

a) SPSS シンタックス

* K2-2. Materialist-Postmaterialist values (12-item index) Kurita

version: [kv2020].

```
if ((v257=1) or (v257=2)) kv2001=2.
if ((v257=3) or (v257=4)) kv2001=4.
if ((v257=9) or (v257=0)) kv2001=0.
if ((v258=1) or (v258=2)) kv2002=1.
if ((v258=3) or (v258=4)) kv2002=3.
if ((v258=9) or (v258=0)) kv2002=0.
compute kv2011=kv2001+kv2002.
recode kv2011 (7=6).
if ((v259=1) or (v259=3)) kv2003=2.
if ((v259=2) or (v259=4)) kv2003=4.
if ((v259=9) or (v259=0)) kv2003=0.
if ((v260=1) or (v260=3)) kv2004=1.
if ((v260=2) or (v260=4)) kv2004=3.
if ((v260=9) or (v260=0)) kv2004=0.
compute kv2012=kv2003+kv2004.
recode kv2012 (7=6).
if ((v261=1) or (v261=3)) kv2005=2.
if ((v261=2) or (v261=4)) kv2005=4.
if ((v261=9) or (v261=0)) kv2005=0.
if ((v262=1) or (v262=3)) kv2006=1.
if ((v262=2) or (v262=4)) kv2006=3.
if ((v262=9) or (v262=0)) kv2006=0.
compute kv2013=kv2005+kv2006.
recode kv2013 (7=6).
missing values kv2011,kv2012,kv2013 (0).
compute kv2020=kv2011+kv2012+kv2013.
frequencies variables=kv2020.
```

b) 出力

KV2020

Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
6.00	3	.3	.4	.4
7.00	1	.1	.1	.5
8.00	8	.8	1.0	1.5
9.00	7	.7	.9	2.3
10.00	15	1.5	1.8	4.2
11.00	33	3.3	4.1	8.3
12.00	46	4.5	5.7	13.9
13.00	165	16.3	20.3	34.3
14.00	82	8.1	10.1	44.4
15.00	234	23.1	28.9	73.2
16.00	150	14.8	18.5	91.7
17.00	57	5.6	7.0	98.8
18.00	10	1.0	1.2	100.0
.	200	19.8	Missing	
Total	1011	100.0	100.0	

Valid cases 811 Missing cases 200

A Measurement of Value: Reconstruction of Ronald Inglehart's Scale of Value

Abstract

This paper shows a reconstruction of Ronald Inglehart's scale of value. Inglehart points out that people's values change from materialistic to post-materialistic, as their countries industrialize. But there are some issues of concern regarding Inglehart's scale. This paper reconstructs twelve question-items which are used to measure people's values and the Materialist-Postmaterialist scale which is developed from these items.

Key Words : Value, Measurement, Scale